

## 令和4年第2回教育委員会会議（定例会）録

### 1 日時

令和4年1月25日（火）13時15分

### 2 場所

教育委員会会議室

### 3 出席者

教育長：星子明夫

委員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：石橋教育次長、深堀理事

今村総務部長、梶原教育支援部長、木下指導部長

柴田総務課長、齊藤学校企画課長、大坪健康教育課長、松本経済観光文化局文化財活用部文化財活用課長

### 4 会議事項

#### (1) 付議事項

付議案第5号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

#### (2) 協議・報告事項

協議・報告ア 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

協議・報告イ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について

協議・報告ウ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について

### 5 開会

教育長開会を宣告 13時15分

付議案第5号は議会の議決を経るべき議案に関する案件のため、協議・報告イ及びウは議会へ報告する案件のため、議決により非公開とされた。

### 6 付議事項

▼付議案第5号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

松本課長より説明

《原案どおり可決》

### 7 協議・報告事項

▼協議・報告ア 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

齊藤課長より説明

〔質疑等〕

(町委員)

- 資料1ページ、「8種目全てを実施した児童生徒数」について、小学校は男女とも2割程度、中学校は男女とも7割近くになっている。これによりデータが動くことにはなると思う。資料2ページ、小学校5年生男子の表について、全国平均より0.86ポイントとわずかに高いとのことであるが、実はインターネットに令和元年度からのデータが全て公表されており、今までは都道府県のみであったが、政令指定都市まで別れた細かいデータが出ている。それを分析したところ、小学校5年生男子は全国平均よりわずかに高いものではあるが、政令指定都市の中では第1位であった。女子は第6位であった。つまり、わずかに高いものではあるが、小学校については、特に男子については高くなっている。また、中学校については、中学校2年生男子は政令指定都市の中で第3位、女子は第7位で、都道府県単位で見ればベスト10に入っている。この調査はスポーツ庁が実施しているが、大都市、中都市、その他都市、町村、へき地と地域の規模別での集計も行われている。福岡市については、令和元年度もそうだが、大都市の中では低い数値ではない。私は教育委員になったときから、専門的な部分でもあったため、体力測定等については頑張ってもらいたいということをお願いしてきた。それが着実に実を結びつつあるのではないかと思う。昨年度の調査は全国的に数値が落ちているが、これは新型コロナウイルスの影響で運動時間が減っていること、それから、学習以外のスクリーンタイム、スマートフォンなどを扱う時間が増えていることなどが大きな原因であると思うので、先ほどご説明いただいた資料7ページのようなことをしていただければと思う。また、福岡市は体力については政令指定都市の中ではトップクラスであり、肥満度調査において福岡市はトップになっているが、気になる部分は、「スポーツが好き」、「体を動かすことが好き」といった部分のデータをみると、小学校は中程度となっているが、中学校は男女ともに最下位に近くなっているので、「体を動かすことが好き」という児童生徒が増えるよう取り組んでももらいたい。

(徳成委員)

- 今回の調査結果は、全国的な記録を取り始めてから最低の水準に落ち込んでしまっており、新型コロナウイルスの関連により子ども達に大きなマイナスの影響を与えてしまっているということが分かる。スクリーンタイムが非常に伸びており、体力が低下した要因と言える。外遊びをしないということが影響を及ぼしているとも考えられる。学校教育だけでは解決しない問題である。小学校は特に学校の体育、クラス単位での活動、休み時間での遊び、レクリエーション、あるいは放課後のスポーツクラブとの連携など、そういった中で楽しく学べる動き作りといったことを仕掛けていくことがこれから必要になってくるのではないかと。中学校は体育の学習に加え部活動についても奨励していかなければならない。ただ

し、必ずしも競技力に特化しない、例えば、今世界的な動きとなっている生涯スポーツ型の体育、運動、スポーツの導入についても今後検討されなければならないと考える。また、質問項目の中に「朝食を食べない」といったことがあったと思うが、これもかなり増加してきていると言われている。生活習慣と体力の問題とは密接な関りがあるので、今後検討の余地がある。もう一点、保育園の立場から、以前福岡県が保育園児の体力、運動能力、運動機能の調査を行ったことがあった。保育園においても幼児体育教室があり、私の保育園でも週1回、3、4、5歳児は体育教員の免許をもった先生が来て指導している。体育教室がある保育園ほど実は体力、運動能力が高くなかったという調査結果が出た。なぜかというところ、体育の時間は意外と運動量が多くなかったというものであり、それよりも保育園においては、思い切り走り回って鬼ごっこをする、段差を駆け上がるといった運動経験が体力・運動機能を伸ばしていくといったことが明らかになった。つまりは園庭や運動場の有無に関係することでもある。それから考えると、小学校においても、体育の授業以外での子ども達の日頃のスポーツ、遊び、レクリエーション活動の経験が重要であるということである。

(原委員)

- 運動をよくする、技術的にどうかというよりも、資料4ページの運動時間について、1週間の運動時間が0分、1分から59分を合わせた児童生徒の割合が全国平均を上回っていることが気になった。運動習慣がなく、動くことが嫌いといった児童生徒に対して、日頃から運動やスポーツをすることの大切さ、意義といったものを体育の授業などで教えていただきたいし、一生にわたっての生活習慣、健康がどういったものかといったところを教えていただきたい。

(齊藤課長)

- 運動を頑張っている、好きな児童生徒は、学校外の活動もスポーツクラブなどで盛んにやっており、かなり運動量が多い。一方でそうでない児童生徒は全く運動しない、この二極化が懸念されるということが数年前から言われているところである。学校教育の中で、運動の場、空間、機会をしっかりと設けて、運動の意義、楽しさといったものも大事な教育の一つであるので、そこは教える側の教員が意識できるように指導していきたいと考えている。

▼協議・報告イ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について

▼協議・報告ウ 学校給食費に係る訴えの提起に関する専決処分について  
大坪課長より説明

## 8 閉会

教育長閉会を宣告 13時40分